



## 白血病の治癒を目指して

副院長／(兼)血液内科代表部長  
(兼)白血病治療センター長  
佐倉 徹

### ●はじめに

白血病治療センターは、日本初の成人白血病の治療及び研究に特化した専門施設として、2006年に産声をあげました。現在は、常勤医師6名で「血液の癌」といわれている白血病を中心にその診断と診療にあたっています。

### ●診療内容

当センターでは、主として、47床の病棟で入院治療を行っています。

一般病床24床の他に、写真に示されているような移植用完全無菌室(3床:class 100)や化学療法用無菌室(クリーンルーム:class 1000設計)(2013年からは2床増床され、20床)を備えています。白血病などの患者さんに対して同種造血幹細胞移植療法(骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植)や抗がん剤を用いた化学療法を実施する際、好中球減少、免疫低下が予想される場合、この23床の病室を使用しています。

移植用無菌室 (class 100)



化学療法用無菌室(class 1000設計)



### ●診療実績

当センターには、年間約600名の患者さんが入院、その約65%が血液疾患患者さんで、県内外の多くの患者さんが当センターに入院され、治療を受けていらっしゃいます。血液疾患の内訳としては、例年白血病の患者さんが多数を占め昨年は70%でした。

また、血液外来では、毎週約160名の患者さんの診療治療に当たっております。

#### a. 化学療法

白血病治療の大きな柱の一つが抗がん剤による化

学療法です。当センターでは、多くの急性白血病症例に対し化学療法を施行しており、日本成人白血病治療共同研究グループ(JALSG)の参加施設として国内において有数の症例を登録している施設となっています。

#### b. 造血幹細胞移植

白血病治療のもう一つの柱である造血幹細胞移植は、例年30名前後患者さんに実施、これまでに506名の方が移植を受けられています。

このうち、189名が血縁者間移植、228名が非血縁者間(骨髄バンクからの)骨髄移植でした。

2005年からは臍帯血移植も本格的に開始され、これまでに109名の方に臍帯血移植が実施されています。

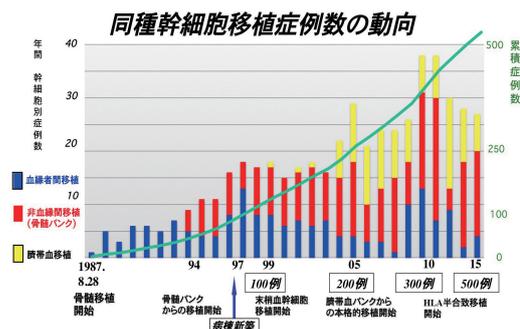
さらに、2010年からは、難治性の患者さんに対し、血縁者間HLA半合致移植を開始しています。

#### c. 臨床試験

しかし、化学療法、幹細胞移植等の標準的な治療では治癒が困難な患者さんに対して臨床試験を実施しています。2014年度からは院内CRC2名が活動を開始、国際共通の第1相試験も実施しております。

### ●学会活動

このように多数の症例をご紹介頂いた結果、その貴重な症例の治療成績を国内の学会で発表するばかりではなく、2015年度はASH(米国血液学会)での口演、SOHO(Society of Hematologic Oncology)2015 Annual Meetingでポスター発表ができるまで、少しずつではありますがレベルアップさせて頂いております。今後も、総力を挙げて、一例でも多くの患者さんに最善の治療を実施できるように努力を続けて参ります。



### ●セカンドオピニオンについて

白血病を始めとした血液疾患は専門医が少ないという事実もあり、多くの患者さんが病気について悩まれているようです。また現在、白血病に対して治療を受けている方は、その自分の受けている治療について迷われることも少なくないと思います。

当センターでは、このような方々を対象として、毎週金曜日午後15時に相談外来(セカンドオピニオン外来; 予約制)を設けておりますので、地域連携課まで電話にてご予約ください。